

本庄村史資料

中田房次郎
大仁四郎左衛門
家文書

附 摂州西青木村外一ヶ村附例小物成米御勘定書組書附
並 摂津国菟原郡西青木村誌

神戸深江 生活文化史料館

目次

一、菟原郡指上大豆先納代銀集帳	(元治元)	中田家	1
一、正大豆納勘定帳	(元治元子)	中田家	5
一、西青木村方諸色定書帳	(文化十三)	中田家	8
一、郡中拂方帳	(慶應元巳)	中田家	9
一、乍恐以書付奉願上候(居宅普請)	(嘉永七)	大仁家	10
一、為取替証文之事	(寛政十二)	大仁家	11
附			
一、撰州西青木村外一ヶ村附例小物成米御勘定書組書附	(明四)	太政官	15
一、撰津国菟原郡西青木村誌	(明十六)	松田文書	16

(表紙)

元治貳年
 子年指上正大豆先納代銀集帳
 乙丑三月
 兔原郡

先納金

一、大豆八拾貳石九斗七升

八合

代

壳石に付

三百拾五勿かへ

此代銀之義ハ去冬

御役所ニ而金子ニ而拝借仕候ニ付、

則金子ニ而「」返済可仕候ニ付

金子ニ而取集可申候。以上

打出村

一、大豆拾三石四斗三升三合四勺

代四貫貳百三拾一匁五分三厘

此金四拾五兩貳歩

銀三厘

右相渡濟

年五十兩
正三十四兩
三歩

二口合八十四兩三歩

五厘二毛

芦屋村

大豆六石六斗七升貳合八勺

代貳貫百匁九分四厘

此金廿八兩貳歩貳厘

銀三匁六分四厘

所 金貳拾兩 三月廿八日

代 相渡し申候

中野村

大豆卷石式斗式升九合式勺

代三貫八十七匁式分

此金四兩式朱 式勺四才

銀三匁四分八厘

内へ金四兩式朱

又札式匁錢ニ而四文相濟

〔 〕之通相渡申候以上

外ニ

金卷歩 天王寺

寄進分

八分 里相渡〔 〕申上候

三月廿二日

深江村

七合五分ノ不〔 〕

大豆七石卷斗卷升八合八勺

代貳貫貳百四十八匁四分三厘

此金廿四兩卷朱

銀四匁六分八厘

右之かへ

金廿四兩卷朱ト

札四匁七分

相渡申上候

丑三月廿日

外ニ金式歩

東照權現様上ル

東青木村

大豆式石三斗式升六合七勺

代七百三拾式匁九分一厘

此金七兩三分式朱

銀式匁六分四厘

三升式ノ七匁不足

青木村

大豆卷石式斗七升三合卷勺

代貳百目卷式分七厘

此金四兩壹分壹朱

銀貳分貳厘

西青木村

大豆貳石四斗壹升四合五勺

代七百六拾匁五分七厘

此金八兩貳朱

銀四匁七分七厘

田中村

大豆壹石五斗三升六合五勺

代四百八拾四匁

此金五兩三朱

銀□匁五分八厘

右之通相渡申上候

三月廿日

外ニ

貳朱 東照權現様上納

横屋村

大豆五石六斗六升貳合壹勺

代三十貫七百八拾三匁八分八厘

此金拾九兩貳朱

銀五匁貳分六厘

「魚崎村

貳升一合七勺

大豆三石四斗六升八合壹勺

代壹匁九拾貳匁勿四分六厘

此金拾壹兩貳分三朱

銀五匁五分四厘

相渡濟

住吉村

大豆拾三石六斗五升貳合九勺

代四貫三百目六分七厘

此金四拾六兩三朱

銀五匁貳分五厘

九升七合九勺「」

「御影西組

大豆八石五斗壹升六合六勺

代貳貫六百八十貳匁七分三厘

此金廿八兩三步壹朱

銀三匁壹分八厘

「御影東組

一、大豆五石七斗五升九勺

代壹貫八百拾壹匁五分四厘

此金拾九兩壹分三朱

銀三匁八分七厘

手形ニ而相渡

三月廿二日

石屋村

大豆三石九斗五升壹合

代壹匁貳百四十四匁五分七厘

此金拾三兩壹分貳朱

銀七分

「新在家村

大豆壹石壹斗四升壹合四勺

代三百五拾九匁五分五厘

此金三兩三分壹朱

銀四匁九分四厘

右御渡申上候已上

三月廿二日

大石村

大豆貳石六斗三升四合

代八百廿九匁七分一厘

此金八兩三分貳朱

銀四匁五分七厘

三

右之通相渡申候

「東明村

大豆貳石壹斗九升五合

代六百九拾壹匁四分三厘

此金七兩壹分貳朱

銀五匁五分六厘

右之通正金ニ而相渡申候以上

三月廿二日

外ニ

金五百疋

東照權現扱

御寄進渡ス

元治元子年

正大豆納勘定帳

撰州菟原郡 郡中

一、正大豆納之儀者玉造ニ而茂不苦引請申候、代銀

貳百八拾六匁かへニ相渡し切ニ致候間可成者何卒

銀手形ニ可被成下候

西青木村

一、五石貳斗貳升九合

但し壱石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀壱ノ四百九拾五匁四分九厘四毛

青木村

一、貳石五斗五升三合

但し壱石ニ付貳百八拾六匁かへ

代銀七百兩三拾匁分六厘

東青木村

一、四石壹斗壹升四合

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀壹匁^四百七拾六匁六分

田中村

一、貳石八斗壹升九合

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀八百六匁二分三厘四毛

横屋村

一、拾壹石六斗八升五合

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀三匁^四貳百廿七匁五分壹厘

魚崎村

一、五石五斗

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀壹匁^四五百七拾三匁

住吉村

一、貳拾五石

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀七匁^四百五拾匁

相渡

一、八石四斗五升六合

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀貳貫四百拾八匁四分貳厘

御影村西組

一、六石三斗六升四合

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀壹匁^四八百廿匁四分

御影村東組

手形貫據ニ而相渡申候

一、廿四石六斗五合

但し壹石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀七匁^四三拾七匁三厘

打出村

芦屋村

一、拾九石五斗

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀五匁五百七拾七匁

石屋村

一、五石九斗三升五合

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀芎匁六百九拾七匁四分芎厘

中野村

一、三石八斗七升

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀芎匁百六匁八分二厘

右六六七九 五歩引ニ而

内金拾芎兩貳分

代芎匁百拾芎匁七分芎厘

指引四匁八分九厘 返

東明村

一、四石貳斗五升芎合

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀芎匁貳百拾五匁七分九厘

新在家村

一、貳石七斗三升芎合

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀七百八拾芎匁七厘

深江村

一、拾五石七斗

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀四匁四百九拾匁四分

大石村

一、四石八斗芎升七合

但し芎石ニ付銀貳百八拾六匁かへ

代銀芎匁三百七拾七匁六分六厘

(表紙)

文化十三年	西青木村
村方諸色定書帳	
子正月吉日	

八月十五日

一、酒五升 神酒

右同断

一、酒三升 役替時

右同断

一、村方御用向最寄之方

酒は見合肴右同断

一、極月勘定中

昼飯茶づけ壺日に酒三升

但肴なし

一、極月大割之節

村方茶ふれなし

一、極月免割之節

昼飯茶つけ酒貳升

肴なし

晩方村方ふれ酒五升

肴右同断 若者下男

なし

一、村方小入用帳面ニ書出し勘定ニ差かへ

候品は書付を取改候上入用帳面ニ書出し

一、酒三升 宗門時

いり壺升

外肴なし

一、酒五升 溝堀時

右同断

六月十五日

一、酒五升 神酒

右同断

一、酒三升 盆割

右同断

申候、不筋之物有之候ハ、相改可申候
旅宿入用等も通を相改村高ニ相掛リ候
分は帳面ニ相加へ可申候
何連通面諸書付改立会勘定致可申候事。

慶應元年
郡中拂方帳
中田善次郎
巳十一月改

初

三月三日

一、三拾八文

なだ十

四月廿八日

一、三百五拾文

神戸より
但割村の飛脚
右博奕掛り

一、貳貫三百四十八文

な九十

一、金三歩

代

大阪
城内勤
ちん

七月 店へ

一、六貫三百九十四文

尼ヶ崎
津山や

七月 店へ

一、七貫百四十文

神戸
火の要慎

一、三貫貳百六十文

兵庫
庄屋

又錢百文

七月 分

一、八貫九百八十八文

灘 重

九月 分

一、壹、三百廿四文

灘 重

七月 分

一、拾貳、百七拾文

灘 重

一、四貫百廿四文

毎日丸

内巻、貳百卅七文

村掛り

貳貫八百八十七文

郡中分

乍恐以書付奉願上候

一、松平遠江守殿御領分摂州兎原郡森村四郎左衛門
と申もの所持五石余百性に御座候処、此度梁行三
間半桁行六間屋根瓦葺居宅普請仕度候ニ而乍恐奉
願上候。以上

作り主

四郎左衛門 ㊦

庄屋

重左衛門 ㊦

桁行六間

嘉永七年

㊦ 二月

右之普請私請負細工仕度奉存候。

何卒願之通御聞濟被為 成下候ハ、難有奉願上候。
以上

小濱深江向番深江村

請負大工

九郎兵衛 ㊦

惣代

九郎左衛門[㊦]

取締役

七左衛門[㊦]

中井小膳様

御役所

前書之通別條於無之ニ者、可致細工ニ付、請負大工江一戸渡候此段小膳殿御申ニ候。以上

中井小膳役人

寅

永田勝左衛門[㊦]

〔印〕
四月十一日

舟橋千左衛門[㊦]

清水儀右衛門[㊦]

撰州

小濱組大工

組頭

七左衛門殿

為取替証文之事

一、芦屋村川上字一之井手ノ東川江引取用水之儀、前々ノ芦屋村、中野村、森村、深江村、三條村、津知村、以上六ヶ村立会年々致番組、并刻限之割を以用水引来罷有候。然処右刻限、芦屋村ニ相心得居候ハ番始之日ノ五ヶ村毎日朝六ツ時ノ昼九ツ時迄四時可差遣、昼九ツ時ノ明六ツ時迄八時は芦屋村用水と存罷在、五ヶ村ニ相心得居候は、朝七ツ時ノ暮六ツ時迄七時は五ヶ村用水、引取、暮六ツ時 同夜七ツ時迄五時は芦屋村用水と相心得、双方存違有之、既ニ去未年夏至而及早魃候ニ付、双方用水引足り不申候故、刻限申争ニ相成、終ニ同年八月十八日五ヶ村ノ芦屋村相手取、大坂 御奉行所様江致御訴訟、御日延中近村魚崎村先庄屋十兵衛致取唆候処、願方五ヶ村之内、深江村、森村、三條村、津知村、以上四ヶ村及対談、番水ニ相成候ハ、毎日卯上刻ノ未下刻迄丸五時之間、右四ヶ村用水ニ相定、申上刻ノ寅ノ下刻迄丸七時之間、芦屋村用水ニ相定、双方無申分及和談候処、

中野村之儀は四ヶ村同様ニ而は難致承知旨ニ而、

不致和濟候ニ付、芦屋村も同年十一月廿五日返答

書差上候ニ付、双方段々御糺ニ相成候処、何分内

濟不相調候ニ付

御奉行所様も 御地頭様江御下ケニ相成、依之

木村周藏様御役所ニ而尼崎御郡代山口伝兵衛様御

立会之上厚御利解度々被為 仰下、猶魚崎村十兵

衛、岡本村庄屋喜左衛門式人え取暖被 仰付候ニ

付、精々相談被與、此度左之趣を以対談申候。

一、毎年夏至之日、番頭ニ相定、寅上刻も未下刻迄

丸六時は、日數十式日番割芻遍之内二日中野村用

水ニ相定。

一、右同断卯上刻も未下刻迄丸五時は、日數十式日

番割芻遍之内芻日、右同村用水ニ相定。

一、右同断申上刻も丑下刻迄丸六時は、番割日數十

式日芻遍之内相廻り候内式日、芦屋村用水ニ相定。

一、右同断申上刻も寅下刻迄丸七時は、番割日數十

式日芻遍相廻り候内芻日、右同村用水ニ相定。

一、右同断夏至之日番頭ニ相定、卯上刻も未下刻迄

丸五時は、深江村、森村、三條村、津知村、以

上四ヶ村用水ニ相定。

一、右同断申上刻も寅下刻迄丸七時は、芦屋村用水

ニ相定。

一、日割之儀は、前々之仕来相用、左之通

寅上刻も未下刻迄丸六時

一、芻番 中野村

卯上刻も未下刻迄丸五時

一、式番 深江村

右同断

一、三番 同村

右同断

一、四番 森村

寅上刻も未下刻迄丸六時

一、五番 中野村

卯上刻も未下刻迄丸五時

一、六番 深江村

右同断

一、七番 同村

右同断

一、八番 森村

右同断

一、九番

同村

右同断

一、十番

三條村

右同断

一、拾壹番

中野村

右同断

一、拾貳番

津知村

日數十式日

但右之日数壹遍相廻り仕舞候ハ、

壹番之中野村江相戻り順番幾度も相

用、若番漬相成候ハ、元之壹番へ

相戻り申定。

一、字一之井手用水掛り堰留普請諸入用銀人足等は、

前々仕来之通立会割合可致事。

一、每年用水番割相定候ハ、村役人ノ頭百姓之内

肝煎と唱、壹ヶ村ニ壹兩人宛相定置、薬師寺東之

井手ニ而、水上芦屋村肝煎と立会、毎刻限互ニ

我意無之様、定之通取斗可致定。

一、深江村、中野村、森村、三條村、津知村、以上

五ヶ村用水引川筋、是又水上并流末之差別有之候得ハ、水下水引取候節、川筋決而差障り致間敷段、五ヶ村一統申合候事。

一、五ヶ村江番水式遍相廻り候ハ、三遍目之頭ニ而、壹ヶ年ニ壹日休番いたし、芦屋村用水ニ引取可申定。

右之趣を以及和談、御願下仕候上は、已来互ニ申分無御座候、聊ニ而茂申合通違乱致間敷候。且又番外急雨等ニ而茂有之、芦屋川江流水有之、芦屋村不用之水有之節は、断相立可申受候。年柄ニ寄植付之節差困候ハ、是又格別断相立可申候。併芦屋村入用水之節は押而不申入候余水之節相頼可申候。兎角相互ニ慎合我意を申間敷候。為後証仍如件

中野村

寛政十貳年

庄屋 弥三左衛門

申四月廿四日

年寄 又兵衛

百姓惣代 弥兵衛

同断 丈助

右同村

百姓惣代	年寄	庄屋	三條村	百姓惣代	同断	同断	年寄	庄屋	森村	同断	百姓惣代	百姓惣代	年寄	庄屋	深江村	同断	百姓惣代	年寄	庄屋
八郎兵衛	七郎兵衛	伊作	四郎左衛門	重兵衛	七郎兵衛	久左衛門	利兵衛	惣左衛門	惣左衛門	茂左衛門	新兵衛	利右衛門	作右衛門	与左衛門	五兵衛	半右衛門	紋治		

庄屋	岡本村	同断	魚崎町	取暖人	同断	百姓惣代	同断	年寄	庄屋	芦屋村	百姓惣代	年寄	庄屋	津知村	同断
喜左衛門	十兵衛	惣次郎	半右衛門	惣左衛門	九左衛門	庄左衛門	与兵衛	左次兵衛	五郎兵衛	六兵衛					

附

摂州西青木村外一ヶ村附例小物成米
御勘定書組書附

摂州兔原郡西青木村
外一ヶ村

去年ヨリ卯迄十ヶ年季

一、米八升老合

附例小物成

先米辻同

内 米二升七合
米五升四合

西青木村
横屋村

右ハ兵庫県支配所書面村々附例小物成米ノ儀
去ル辰巳二ヶ年トモ一ヶ年季ヲ以取立候ニ付
去年年ヨリ更ニ年季ヲ定メ相伺候処切替増無
之聞届候段不都合ニ付今一応遂吟味増米難出
来情実モ候ハ、更ニ可伺出旨御下知御座候処
右ハ最初切替吟味ノ節増米難渋ノ始末申立候
ニ付右次第先般ノ伺書へ認加下申処全認洩相
成候儀ニテ猶依御下知再応及理解候処右附例
ノ儀開発御高入可相成見込有之附例小物成村
請相願候処其後大汐ノ度々変地イタシ当時海中

同様ノ場所ニテ急速開発可相成場所ニ無之乍
聊年々辯納罷在免除相願度候得共寄例ノ儀ニ
付猶開発可成期モ可有之ト追々継年季相願米
候儀ニテ増米ノ儀御免除被下度段申立ノ趣無
相違相聞候間先米辻ヲ以去年ヨリ卯迄十ヶ年
季跡請申付候様仕度於然ハ右米八升一合年季
中取立之相納其年々御勘定元ニ組仕上可申候
依之御証印有之度候也

明治四辛未年正月

権知県事 中山信彬

申出之通

辯官御傳達所

撰津國菟原郡西青木村誌

西青木村^{仁志阿}於^{仁志阿}置年月日不詳、南北兩部ニ分レ

一村トナル。古時^{年月}不詳山路庄ニ屬ス。天正年中、

豊臣氏ノ直隸ニシテ奉行片桐主膳正ノ支配タリ。

元和元年豊臣氏亡ビ徳川氏之レヲ戸田左門^{尼ケ崎}城^主

ニ賜フ。寛永十二年戸田氏鉄濃州大垣ニ轉セラレ

青山幸成^{尼崎}城主^代テ領ス。之ヨリ五傳シ宝永八年青

山幸侶信州飯山ニ轉シ櫻井忠喬^{尼崎}城主^代ノ領スル所ト

ナル。

明和六年徳川氏此地ヲ改メ其ノ直轄ノ地トス。世

々代官ノ所管轄スル所タリ。徳川氏ノ大政奉還ス

ル明治元年二月兵庫裁判所ヲ設ケ之ヲ改ム。此年

五月本縣(兵庫縣)ヲ神戸港ニ置キ之レガ管地ト

ナス。同三年社寺等ノ閑地ヲ改メ本縣管轄トナル。

同五年本縣區劃第六区ニ屬ス。同十二年十月區劃

ヲ廢シ、菟原郡役所ヲ住吉村ニ置キ之ガ管轄ニ帰

ス。同十三年住吉村ノ郡役所ヲ廢シ武庫郡役所

(西宮)ニ合併シ之ガ管轄トス。

疆域

東ハ全郡青木村ニ隣リ西ハ西川ヲ以テ全郡横屋

村ニ界シ、北ハ全郡田中村ニ接ス、南ハ海岸ニ

沿フ。

幅員

東西 式百五拾四間 南北 式百九拾六間壹尺

周圍 千百間式尺

面積 八萬三千式百式拾六坪

地種

官有地

第一種 老筆 反別拾四歩

第三種 百六筆 反別參町三反四畝式拾式歩

計 百七筆 反別參町三反五畝六歩

民有地

第一種 參百參拾式筆

反別式拾參町式反七畝式拾歩

第二種 四筆

反別參町五反五畝四歩

計 參百參拾六筆

反別式拾六町八反式畝式拾四歩

字地

本ノ坪

毛登能 当村ノ西部ニアリ、社老ケ所、都 煩 境外官有地老ケ所、家屋散在余ハ田面ナリ

横長

唄許 当村ノ西北、本ノ坪ノ北ニアリ、於佐 家屋散在余ハ田面ナリ

井手

伊 傳 当村ノ西北隅、横長ノ北ニアリ、家屋老ケ所アリ、余ハ田面ナリ

荒木

阿良 当村ノ北、井手ノ東ニアリ、全部 伎 田面ナリ

福井

布久 当村ノ北、荒木ノ北ニアリ、全部 伊 用水溜池ナリ

柳

夜那 当村ノ北、福井ノ北ニアリ、畑地 藝 ナリ

長田

那賀 当村ノ東北隅荒木ノ東ニアリ、全 多 部田面ナリ

土田

度 田 当村ノ北東、長田ノ南ニ位シ全部 田面ナリ

石田

伊志 当村ノ北方荒木ノ南ニシテ田地ナリ 陀

丁ノ坪

智夜寺 当村ノ東、石田ノ南ニアリ、全 能都富 部田面ナリ

中ノ内

那賀能 当村ノ東、土田ノ南ニアリ、全 宇智 部田面ナリ

垣内

加伊 当村ノ東、中ノ内ノ南ニ在リ全部 智 田面ナリ

前田

許麻 当村ノ中央ニ在リ、全部田地ナリ 破良 麻延 当村ノ西、本ノ坪ノ南ニ位シ、家 陀 屋連続社郷ノ地、余ハ田地ナリ

大田

陀伊 当村ノ西南、前田ノ南ニアリ、田 地ナリ

内濱

宇智 当村ノ東南、荒堀ノ南ニ在リ、家 破麻 屋散在村落ノ状態ヲナシ、余ハ田地ナリ

荒堀

阿良 当村ノ東南ニ在リ(大田ノ東、内 煩理 濱ノ北) 墓地老ケ所アリ、余ハ田 地ナリ

已新田

美志武 当村ノ南、寅新田ノ北ニ在リ、 傳武 家屋一ケ所、余ハ田畑地ナリ

寅新田

登良志 当村ノ南ニアリ、家屋散在、余 武傳武

寅新田

登良志 当村ノ南ニアリ、家屋散在、余 武傳武

ハ畑地ナリ

明垣内

阿許能加伊智当村ノ西南、西川ヲ隔テ、大田

ノ西ニ在リ、田地ナリ

川西

加和仁志当村ノ西北、西川ヲ隔テ横長ノ西

ニ在リ、田地ナリ

里程

標柱ハ本村中央字本ノ坪ニ在リ

縣庁ハ西方式里拾八町五拾壹間

武庫菟原郡役所東方一里廿一町四尺

西宮警察署東方壹里廿町貳拾六間四尺

四隣標柱

東 青木中央へ六町拾間

西 横屋村中央へ四町拾八間

北 田中村中央へ七町

本郡御影村標柱ハ西方廿五町參拾貳間壹尺貳寸

八郡郡神戸元標へ式里貳拾四町拾八間

武庫郡西宮元標へ壹里貳拾壹町拾九間貳尺

地勢

水脈ハ北方ヨリ乘リ北東ニ流ル、ヲ横川ト云ヒ

其ノ次ニ在ルヲ新樋川ト云ヒ、其ノ次ニアルヲ

落合川トイヒ、其ノ次ニ在ルヲ土田川ト云ヒ、

其ノ次ニ在ルヲ内濱川ト云ヒ、其ノ次ニアルヲ

石田川ト云ヒ、其次ニアルヲ蜷川ト云ヒ、其次

ニアルヲ西川ト云フ。合セテ八條ノ川ヲ有シ、

本村ノ西北ヨリ東南ニ廻リ他村ヲ隔テ海ニ入ル。

又ハ本村ノ西、或ハ中間ヲ南流シテ海ニ注ク。

地形

土地平坦ニシテ概ネ田圃タリ。家屋散在シテ国

道(菘等)其ノ南部ヲ横通シ、里道(菘等)中

央南北貫通シ本村海岸ヨリ田中村ニ入り、海陸

運輸便宜ノ地ナリ。

地質

其色薄黒ク細砂土瘦、中稻及裸麦ニ宜シ綿ニハ

適セズ

戸数

本籍 平民五十六戸 他出寄留者三戸

村社 菘座 寺院 菘宇

計

人員

本籍 男 平民九拾四口

同 女 〃 宅百七口

計 貳百壹口

他出寄留 男平民 四口 全女 四口 計八口

合計 貳百九口

戸長役場

魚崎組戸長役場管理ス

警察署

西宮警察署御影分署管理ス

学校

青木小学 合併青木村ニアリ

神社

春日神社賀須

本村北方字本ノ坪ニアリ、東西式

間南北七間、面積拾四坪官有地タリ、村社トス

春日大明神ヲ奉祀ス。社地樹木有ト雖モ老樹ト

云フヘキモノナシ。創立年月不分明、往古ヨリ

村中信仰仕来リ燈籠等奉納シ、村中日毎ニ替リ

テ燈火ヲ奉点ス。毎年八月十五日祭禮ヲ執行ス。

任吉神社神官横田正實受持謹守シ奉ツル。

寺院

西林寺佐伊

理武本村本ノ坪ニ在リ、東西拾參間、南

北拾貳間參尺、面積百六拾貳坪民地タリ、青木

山ト号ス。眞言宗本願寺派ニシテ、元龜二年辛

巳參月僧侶信忠開基創建ス。其ノ後現今ニ至ル

迄開山ヨリ拾五世、現在藤川月船住僧迄盛衰変

遷或ハ非道ノ災害ニ遭フコトノ証跡ナシ

墓地

埋葬地本村東南字荒堀ニアリ、反別六畝六歩

道路

国道第壹等道路ニシテ本村ノ東方青木村ノ境界

字内浜ヨリ本村ノ南部ヲ貫通シ、西方横屋村境

界字大田ニ至ル迄延長貳町廿一間、幅三間タリ。

耕地

田 民有貳百四拾五筆 反別拾七町六反壹畝六歩

地価壹萬五千六百五拾円五拾錢九厘

旧反別 拾七町九反壹畝拾歩 石盛壹、八升

民有三拾六筆 反別三町三反拾四歩

地価千貳百七拾九円六拾九錢七厘

旧反別三町六反壹歩 石盛四斗

宅地

五拾一筆 反別貳町三反六畝歩
地価壹千七百四拾參円九錢五厘

旧反別三反九畝拾貳步半

石盛苞石

森林

春日上地 本村ノ西北字本ノ坪ニアリテ東西式間四尺五寸、南北六間反別拾七坪、東北字本村字岡所里道ニシテ、南ハ字岡所民有耕地ニ接シ西ハ本村字西川ニ界ス。大樹ナシ所々小松生ス。

河渠

横川与 水源北方本郡岡本村八幡下ヨリ岡本田

中兩村ノ地内ヲ經テ来リ、本村ノ北東部ヲ東へ廻リ同郡北畑村深江村ノ地内ヲ經テ南流シテ海ニ注ク。

尚村地内延長式百四拾間、最深三尺五寸最淺三尺、最廣五尺最狹四尺、平時ハ白砂ニシテ霖雨ニシテ急流ヲ見ル。

新樋川志 水源ハ北方田中村地内ヨリ来ル。

本村地内字福井ノ北部ヨリ北畑村地内ヲ横通シ、青木村地内ヲ南流シテ海ニ注ク。

本村内延長式百參拾八間、最深三尺五寸最淺三尺、最廣式尺五寸最狹式尺、平時細流ニシテ唯夕霖雨急流ヲ見ル。

落合川於智 水源北方本村北方石田川ヨリ分裂

シテ来ル、當時字荒木ト長田ノ北部ヲ横通シ青木村ノ地内ヲ南流シテ海ニ注ク。当村内延長三百間、最狹式尺平時ハ白砂ニシテ霖雨ニ急流ヲ見ル。

土田川度 北東當時落合川ヨリ分裂シテ、中ノ

内南部ヲ西へ廻リ字駒原ニ至リ蜷川へ合併ス。土田川当村内延長式百四拾間、最深式尺最淺壹尺五寸、最廣壹尺五寸最狹壹尺、平時ハ白砂ニシテ霖雨ニ急流ヲ見ル。

内濱川字智 水源本村東部字中ノ内ニシテ、土

田川ヨリ分裂シテ本村字垣内、荒堀、内濱ヲ南流シ、内濱南部ヲ西へ廻リ已新田ノ間ヲ南流シ、寅新田ノ北部ヲ西へ廻リ蜷川へ合会ス。内濱川当村内延長九拾間、最深四尺五寸、最廣六尺、最狹五尺五寸、平時ハ白砂ニシテ霖雨ニ急流ヲ見ル。

石田川伊志 水源北方田中村ヨリ来ル。当村字

荒木ト井手ノ間ヲ東へ廻リ、丁ノ坪ノ東部ヲ南へ流レ駒原ニ至リ同所北部ヲ西へ廻リ蜷川

へ合会ス。石田川当村内延長四百式拾間、最深式尺最淺壹尺五寸、最廣式尺最狭壹尺五寸平時ハ細流ニシテ唯々霖雨ニ急流ヲ見ル。

蜷川志自 水源本村西北字横長ニテ西川ト分裂シテ来ル。本村字本ノ坪ノ中間ヲ南流シ同所南部ヲ東へ廻リ、駒原前田ノ間ヲ南流シテ海ニ注ク。蜷川当村内延長四百間、最深六尺最淺式尺、最廣五尺五寸最狭式尺、平時ハ細流ニシテ唯霖雨ニ急流ヲ見ル。

西川仁志 水源本村西北田中村地内ヨリ来ル。本村ノ西部ニ沿ヒ南流シテ海ニ注ク。西川当

村内延長四百五拾間、最深六尺五寸最淺六尺最廣六尺最狭五尺五寸、平時ハ細流ニシテ唯々霖雨ニ急流ヲ見ル。

橋梁

内濱橋字智 本村ノ東南ニアリ内濱川ニ架ス、

国道一等道路ニ屬ス、石道ニシテ長壹間幅三間タリ。

蜷川橋志自 本村ノ南西ニアリ西川ニ架ス、

国道一等道路ニ屬ス、石造ニシテ長壹間半幅式

間タリ。

西川橋仁志 本村西方西川ニ架ス、里道二等道路ニ屬ス、石造ニシテ長壹間半幅壹間タリ。

西川橋仁志 本村ノ南西、西川ニ架ス、里道三等ノ道ニ屬ス、石橋ニシテ長サ壹間半幅壹間タリ。

池

福井池布久 本村ノ北方字福井ニアリ、東西八拾

五間六寸南北六拾間、周圍式百九拾間壹尺式寸、積面五千百六坪本村ノ用水トス。

凡田拾四町歩ノ灌溉ニ供ス。

福井池布久 太村北方字福井ニアリ、東西四拾間

三寸南北六拾間、積面二千四百三坪、本郡青木村へ貸池ニシテ右青木村ノ用水トス。田凡

五町歩ノ灌溉ニ供ス。

井手池伊傳 当村ノ西北ニアリ、東西四間南北六

間、積面式拾四坪本村ノ用水トス。凡田五畝歩ノ灌溉ニ係ス。

已新田美志武 当村ノ南方ニアリ、東西五間南北

六間、積面參拾坪、本村ノ用水トス。凡田七

畝歩ノ灌溉ニ供ス。

物産

米中稻ニ適ス。 尅ヶ年産出高貳百石

麦裸麦ニ適ス。 尅ヶ年産出高七拾石

菜種ニ適ス。 尅ヶ年産出高拾七石六斗

民業

僧侶 壹人 農業 四拾人 商業 壹人 雜業 拾參人

租税国税

地租 金四百五拾八円貳拾八錢六厘

郵便税 金六拾五錢

船舶税 金參円

車税 金參円五拾錢

合計 金四百六拾五円四拾三錢六厘

地方税

地租 金九拾壹円六拾五錢六厘

戸数割 金貳拾貳円四拾錢

營業税 金七円七拾五錢

雜種税 金七円五拾錢

右計 金百貳拾九円參拾錢六厘

旧租高

貳百拾七石壹斗壹升貳合

田反別 拾七町九反壹畝拾九步 石盛壹石八斗

畑反別 參町六反壹步 石盛四斗

宅地反別 參反九畝拾貳步半 石盛壹石

總計反別貳拾壹町九反壹畝貳步半

正租金四百五拾八円貳拾八錢六厘

右ハ本年丁卯第一号御布告ニ據リ取調候処、書面之通ニ御座候也。

明治十六年十月十五日

戸長 松尾仁兵衛

本庄村史資料

中田房次郎
大仁四郎左衛門
家文書

附 撰州西青木村外一ヶ村附例小物成米御勘定書組書附
並撰津国菟原郡西青木村誌

一九八八年八月十日発行

編著者 本庄村史編纂委員会

発行所 神戸深江生活文化史料館

神戸市東灘区深江本町三一五―七

印刷所 印刷ショップ フタバ

